



千葉県立佐倉
東高等学校
同窓会

佐倉市城内町278
TEL043(484)1024
FAX043(486)0995

―総会を終えて― 協力に感謝

会長 内田 正 恵

(昭和三十三年卒旧姓渡辺)



会員の皆様如何お過ごしでしょうか。日頃同窓会へのご支援ご協力に心より感謝申し上げます。平成二十一年度総会を六月十三日に開催致しました。九十余名という多くの方々のご出席を頂きありがとうございます。今年は実行委員会を設け第十七・十八・十九回卒業生の代表を中心に総会・懇談会の企画を担当、出席者も募って頂き、盛会裡のうちに終了することが出来ました。次年度もこの形式で一人でも多くの出席者をと願っております。議案の一つでありました道徳実践室、通称同窓会館の修理に同窓会として協力することに関する提案が承認されました。工事は夏休み中に完了とのことです。

校長先生はじめ諸先生方の並々ならぬ良き御指導の賜物でしょうか男女共学も滞りなくすみ、男子会員が年々誕生し心強いかがりです。

母校と同窓会の益々の発展と会員皆様方の御健康を祈念申し上げます。



朗読「転生」総会にて

夢・未来獲得宣言 地域に愛される学舎へ



校長
大沼 功

昨年、同窓会のご厚意により体育館に新校歌の額が取り付けられたことはすでに皆さんもご存じのことと思います。この標題は、その校歌の歌詞からとり、日頃からの生徒の目標にしてもらうために考えたことです。「この坂は 是るかなる未来につづく……夢をいだきて つどう友よ」と佐倉東高の生徒一人一人が高校の三年間で「夢を手にする自分を創り、未来に羽ばたく自分を創って欲しい」と考えてのことでした。集会時の校歌指導にも大変重宝しています。

そんな思いに応えるかのような生徒たちの活動をご紹介します。日頃から生徒会や家庭クラブで「エコ」への取組をしてきていたところですがその一環として、今年は生徒からの提案で通路路のゴミ拾いをしています。昇降口でゴミ袋を渡し、JR佐倉・京成佐倉それぞれの駅で回収する「通路路ゴミ拾いプロジェクト」の取組です。詳細

は本校のホームページでご覧いただけますが、提案時の生徒の言葉は「この活動で東高生の美化意識を高め、捨てない・拾うことが地域の人たちから愛される東高になる」とのものでした。

また、夏休み前からは、ペットボトルのキャップを回収し、鹿陵祭に向けてそのキャップを使つての壁画を作製しています。夏休み中も暑さにめげず、生徒会・文化祭実行委員の生徒が中央廊下で大変な作業をしてくれていたり、コンビニなどをお願いして回収したキャップをビニール袋に入れて運ぶ姿も目にしました。文化祭が終わったあとは、キャップはユニセフを通じて発展途上国のワクチン接種の基金になるようにとの取組でもあります。そうして生徒たちの姿を見ていると、同窓会の諸先輩方の「そうね、情けは人のためならずよね」との会話が聞こえてくるようで、大変嬉しく思っています。

そんな生徒たちの活動を、この夏、雨漏り対策のために同窓会のご厚意によって修復していただいた「鹿陵館(同窓会館)」のきれいになった屋根も見守っていてくれると思うと感慨も一入でございます。

『夢・未来獲得宣言』との標語のもとに、佐倉東の更なる発展に尽力します。皆さんとともに佐倉東高校の第二世紀を歩みたいと決意しています。

『同窓会総会に参加して』



教頭
平山 弘之

昭和五十九年から平成五年までの十年間勤務し、愛着のあるこの佐倉東高校に十五年ぶりに戻ってくることに出来、大変嬉しく思っております。

さて、先日開催されました同窓会総会に参加させて頂き、私は、本校の日々の教育活動が、この佐倉東高校本校の百年を超える伝統の最新の部分として、創立からの歴史につながっているのだということを改めて実感致しました。大げさな言い方かもしれませんが、その時、私は佐倉東高校の全く別の姿に気付かされたような思いでした。

自己紹介等で皆様のお話を伺うと、大正生まれの方や今現在、女性社長として会社の経営を切り盛りしていらっしゃる方、親子二代、三代にわたる同窓生等、様々な年代の方々が様々なお立場で、この佐倉東高校に愛着を持っておいでなのが見えます。

勤務校で周年行事などを行うと、仕事として、その学校の詳しい歴史を調

べたり、学校の歴史の節目に関わった方々をお祝いすることに意識が向いて、案外自分自身が今、その歴史に関わっているという事はなかなか実感できません。日々の教育活動も同様です。

しかし、朗読で多くの人々を魅了している内田会長様をはじめ、校内幹事として活躍していらっしゃる北村先生や野口先生、船岡先生、有田先生やこの春ご退職された林先生、そして有田先生の恩師でもあり、佐倉東高校の学校改革を志した校長から請われて勤務していた茨城の教職を辞し、千葉県の採用試験を受け直して教師となり、母校の立て直しのために赴任された古川先生など、同窓生の皆さんの母校に対する熱い思いは当時の思い出としてのみではなく、現在の佐倉東高校に対しても注がれているのだと言うことを強く感じました。

この方々が、嘗て佐倉東高校で高校生活を送っておられたのだと思うと、今、目の前にいる生徒たちを、この同窓生の方々につないで行く為にも、佐倉東高校の教育を更に充実させて行く必要があると改めて感じた次第です。

最後に、総会でご紹介した「古画大系」二冊は、佐倉市立美術館で保管して頂けることになりました。この場をお借りしてご報告させていただきます。

同窓会総会に出席して

小川 智恵子

(昭和三十三年卒 旧姓路野)

平成21年度
総会に出席して

校名を改称、昭和四十二年鐫木より現地の城内町に移り、平成十七年男女共学校となる。

本年は設立一〇二年という輝かしい

歴史と伝統のもと、二十一年度卒業生で総数二一三八一名を数えている。学校の現状では、教員、学生が丸となって「地域に愛される学校」をめざし頑張っている様子が報告され「真摯醇正」の校訓を心として、継承されていることをうれしく感じた。会の随所に温かな企画がなされ、懇親会での内田会長様の朗読は、聞く人にその情景をありありとイメージさせ、人の心を魅了するという会長様の朗読の技量に感嘆した。今日の総会は実に得る所、大なる会であった。次年度もより多くの方に歴史と伝統のある同窓会の歩みと、総会の雰囲気味わって戴きたく次回には同窓である私の三姉妹を誘い、更に



クラス幹事の方に声をかけ、総会の場にクラス会を組み入れる等工夫し、多くの級友が出席出来たと今、私案している。最後に同窓会長様はじめ、校外、校内役員様、クラス役員様の同窓会によせる平素のご尽力に対し、心より御礼を申し上げ、母校、同窓会の益々のご発展をお祈り致しております。

役員の方に感謝

山田 正子

(昭和三十三年卒 旧姓石渡)

私は、昭和三十三年度の卒業生です。私達のクラスの秋本さんが役員になって頂き、総会時の進行や、「まそかゞみ」の発行など、尽力されております。毎年総会の日時が決まると、早目に連絡を頂き、成田地区の友達に知らせています。クラス会も、平成十三年から行っていないので、総会の時に逢うのが楽しみです。昨年の百周年の総会にも、ホリデイ・イン東武成田に、出席させて頂きました。由緒ある母校の偉大さを、しみじみと感じます。四年前に男女共学校となり、一段と重みのある学校を、力強く思います。平成二十一年度の総会は、六月十三日、ウイシュトンホテル・ユーカーリで開かれ、いつもと違う新鮮味がありました。参加者も九十余名の出席で、盛大に行われ、総会議事から、懇親会と盛り上がり楽しいひとときを過ごすことが出来ました。今日まで役員さん方の御苦労に、感謝申し上げます。帰りには、くじ引きのおみやげまで頂き、ほんとうに、良い気持ちで帰路となりました。私達の学び舎は鐫木校舎でしたので、是非機会をみて現校舎に訪れてみたいと思っております。鐫木校舎跡地は、佐倉中央公民館となり、時々公民館に行きます。駐車場の花壇中央に「旧校地跡記念碑」が建ててあり、なつかしく見て参ります。役員の皆様、ほんとうにご苦勞様でした。





喜寿に集うさそう会 平成20年10月吉日 於 成田ひかたや第二支店

「さそう会」私達同窓会の名称です。6地区輪番制で毎年開催しています。年を重ねるにつれ、出席者が少なくなってきましたが続いています。

戦中・戦後の厳しい時代女学生だった私達も喜寿を迎える年になりました。この記念すべき平成20年の「さそう会」は成田地区が当番になりました。「喜寿を迎えることのできた喜びと幸せを感じて頂ける会にしたい。」と、幹事6名は準備を進めてきました。

「記念品を出そう」ということになり、あれこれ考えた末、「湯呑茶碗」に決まり、品質や絵柄などを吟味して、

「祝喜寿 さそう会」と名入れの湯呑茶碗を用意して当日を待ちました。

平成20年10月20日(月)、会場のひかたや第二支店に、県内は勿論、東京、神奈川、茨城から31名が集まりました。77才を感じさせない程の元気な友、足腰を痛み杖を頼りにしている友、何となく体調が優れないという友とにかく、一年ぶりの再会を喜び合いました。

喜寿に集うさそう会(佐倉会)

秋山 ミツ子

(昭和二十四年高女卒 旧姓竹尾)

ささやかな心尽くしの記念品を手に、「素敵な湯呑茶碗だわ。」
「大切に使いましょう。」

喜んでくださった友の声に、当番地区として、大変嬉しく思いました。「お化粧がくずれないうちに写真を撮りましょう。」と記念撮影です。30分後には出来上がってきました。若々しく撮れている大版の写真を見て、みんなニコニコ顔です。乾杯。自己紹介に続いて歓談に移りました。

おいしい料理に舌鼓を打ちながら、思い出話や、趣味、最近の健康状態な



どについて、時の経つのも忘れて語り合いました。

おしまいに「さそう会」のこれからについて話し合い、「輪番制の継続

は難しい地区もある。」という話があるので、「輪番制は今回で終わりにしましょう。」と出席者全員一致で決まりました。

次回の「さそう会」は、佐倉地区有志の方々のご厚意で「平成21年10月第3月曜日、割烹玉家」に速決。再会を期し、名残りを惜しみながら「喜寿に集うさそう会」はお開きになりました。喜寿の年に「さそう会」の当番をさせて頂けたことに感謝しています。

終わりにりましたが、母校の益々の発展を心よりお祈り申し上げます。

贈「熟成された女性史研究」

伝統ある女子校の生徒さんに、読んで頂きたいとお申し出により伊東真佐子様(昭和四十六年卒 旧姓古井)から「日本女性史大辞典」のご寄贈がありましたのでご紹介させていただきます。

政治、経済、社会、文化、生活と幅広い分野で活躍した女性のみならず、歴史の底辺で支えた女性の姿を各時代、アイヌ、琉球、沖縄と分けて項目を記している点(共通項目)や各項目の末尾に関連する書物、史料が付記されている点など、生徒の課題研究に大きく役立つ内容です。大変、高価な辞典ですので本校図書室での室内閲覧のみとなります。手軽に歴史の研究項目をつかみとる事が出来る一冊です。

新着図書コーナーにありますので、是非一度ご覧ください。

ページ数 七九五ページ

図版 二十四ページ

索引 一三七ページ

分類項目表(人名・神名)

佐倉古城鹿島台への学校移転

旧職員 佐伯清毅

(S40・4～S46・3)

JR成田線の車窓から、佐倉城あと鹿島台に高くそびえる佐倉東高校の雄姿を遠望する。かつて、教員として在職当時に学校移転の大事業に携わったことは、なつかしく、かつ、大きな誇りである。(学校移転の詳細は佐倉東高校「創立七十周年記念誌」参照)

あの時代、日本は戦後復興から高度経済成長期に入り、東京オリンピック(一九六四(昭和三十九)年)が成功し、世界の経済大国として歩んでいたころである。

新校地の候補として、佐倉城、佐倉連隊のあとの鹿島台(現校地)が最適地として選ばれたが、複雑な土地問題もあって、県教育委員会から「無理だ」と突き放されていた。村田泰次郎校長先生は加藤高先生などと相談されながら、佐倉市はじめ関係の方々の支援を受け、一徹無私、不屈の教育的信念をもって、筆舌に尽くし難い苦労を重ねられ、ついに、一九六五年、国有地の本校への払い下げが決定された。

新校地の整地、移転作業は、学校の

全組織をあげて取り組んだ。陸上自衛隊の重機による整地作業、PTAの方々のトラックの提供や労力奉仕、同窓会の方々の奉仕作業、また、教職員、



そして、全日制、定時制の生徒の皆さんの放課後や夏休みに、授業との両立を図りながら作業が続けられた。

暑さに汗を流し、寒風にあえぎながら、

鎌や鍬をもち、リヤカーを引き、草刈り、整地、芝張りなどに精を出した。引越し作業は、机、椅子、図書、校具や植木草花の一木一草まで、自分たちで出来るものは人力で旧鎗木校舎から持ち運んだ。一柳博信先生はじめ体育科の先生方は関東ロームの直土の上にテントをはり、作業の準備や指示にあたった。

一九六七年十月、喜びの新校舎が竣工し、入校式が挙行された。更に、二期、三期工事が続けられた。

古代中国の孟子のことばに「天の時は地の利に如かず、地の利は人の和に如かず。」とあるが、この大事業は村田校長先生の高邁な人格、そして、地域、学校関係者、生徒の一致となつての「人の和」が成し遂げた大成果といつても過言ではない。

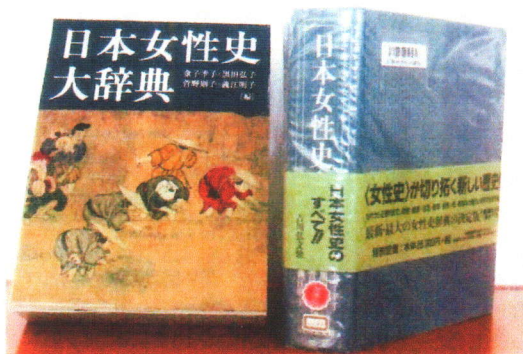
一九七一年、ときの坂田文部大臣が来校され、新体育館で本校生徒の皆さんに講演をしてくださった。その帰り、坂田大臣は見送りの本校生徒会役員の皆さんに車からおりられ、笑顔で挨拶されたのを記憶している。

現在、佐倉東高校の移転当時の教職員を核にして、学校に関係のある方々で、鎗木会《事務局 横内健生先生 電話0476(73)2930》をつくり、学校のこと、教育のことなど懇

(書籍・史料(事項))
吉川弘文館発行

出版年 二〇〇七年(第一版)

職員 五十嵐利子



談の機会をもっている。会合は盛会で遠く北海道や長野から参加して下さる方もおり、今後も続けようと話し合っている。ただ、非常に残念なことは最も苦勞なされた村田校長先生や加藤先生はじめ諸先生方がすでに他界されたことである。(元県立匝瑳高校長)



石井まさ様をお偲びして

思いだすままに

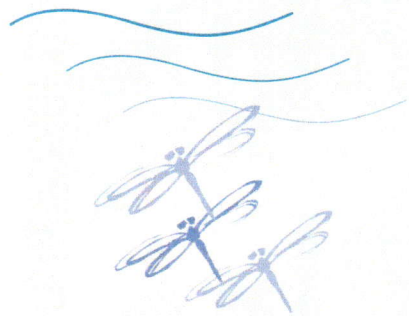
旧職員 宮 川 幸 子

(S23・7～S33・3 S44・4～S58・3)
(昭和十七年高女卒 旧姓野崎)

千葉県立佐倉高等女学校第一回卒業生三十名の中に植草こう先生、木内く様に様がおられ、大正十三年第二回の卒業生五十名に石井まさ様がおられます。七十周年記念誌の同窓会のあゆみを拝見いたしますと、大正十二年の総会でお三人共評議員や理事をなされてます昭和十三年から二十七年まで副会長として木内く様に、昭和十七年から昭和五十四年までは石井まさ様植草こう様

と、長い間お三人で同窓会を築いて下さいました。昭和五十四年、小川實校長先生が「同窓会長は卒業生がやるべきだ」とのことで、昭和五十五年から石井まさ様に会長、学校長は副会長と総会にて承認いただきました。また小川校長より「同窓会報を発行したらどうか」との提案があり、役員の方に葉書を出して回答の一番多い「まさかゞみ」と決めました。校内役員が校務のあいまに智恵を絞り試行錯誤しながら創刊号の発行にたどりつきました。その「まさかゞみ」が第30号と伺い、編集委員の方々の御苦労に感謝しております。

記念誌の中に石井まさ様が「エンジの袴のころ」と題して思い出を書いておられます。着物を着てエンジの袴姿の女学校時代を思い出しております。同窓会の役員会、総会の時はいつもすてきな和服をお召しになり、会計監査



の金杉様、桧貝様、栗原様達と交通の便の悪い鹿島台の新校舎に足を運んで下さいました。昭和三十九年の総会では、植草様、石井様、栗原様、根本様お揃いで詩吟をなさった記憶があります。お背が高く、少しおやせぎみの石井まさ様が、大きくきれいな声を出しておられるのには驚きました。常日頃から御趣味として励んでおられた事と敬服いたしました。

百歳の時には御夫妻で千葉テレビにお出になったこともございました。

長女の玲子様は加瀬外科医院に嫁がれ二人のお子様に恵まれました。石井まさ様はお子様やお孫様に囲まれて、手厚いお世話を受けお幸せな人生だったと思います。昭和五十七年に会長をお辞めになって、三十年近くになります。心よりご冥福をお祈りいたします。



計報



初代同窓会長石井まさ様が、平成二十一年一月十七日にご逝去なされました。

石井様には、母校の歴史と伝統のある同窓会を築いて下さり、永い間のご尽力に感謝致します。そして数々の素晴らしいご功績に敬意を申し上げ、石井様のご冥福を心からお祈り申し上げます。

小川實校長先生

(昭和54年4月～昭和60年3月)

中島昭治先生

(昭和40年4月～昭和45年3月)

鈴木正明先生

(昭和46年4月～昭和56年3月)

小川喜三郎様

(昭和37年6月～昭和55年3月)

中村 節 元副会長様

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

平成二十一年度総会の報告

六月十三日(土) ウィンストン・ユ
ーカリホテルにて、平成二十一年度総
会が行なわれました。

今回は総会実行委員会を設け、一人
でも多くの出席者をと、企画から当日
の進行まで担当しました。お陰様で九
十三名の出席のもと、盛大な総会が開
催されました。会長挨拶、新しい教頭
先生のご紹介、職員異動、学校の現状
報告があり、平成20年度事業報告及び
決算の承認と平成21年度事業計画、予
算案の承認をいただきました。

特別協議事項として、玄関先の同窓
会館が老朽化のため修繕費の一部とし
て同窓会より負担すること。又「日本
古画大系」の書籍を第十二代故横橋校
長先生のご家族より学校での管理依頼
がありました。諸事情により佐倉市
に寄贈する。以上二点の提案があり、
承認を得ることが出来ました。

黙祷から始まった懇親会では内田会
長による素晴らしい朗読「転生」をお
聴きしました。続いてアトラクション
タイムでは童心に帰りジャンケンで盛
り上がりそれぞれ、お土産を手に。最
後は手を繋ぎ大きな輪を作り、女子校

校歌を合唱して幕を閉じました。

初めて出席された方、毎年出席され
てる方、又クラス会を兼ねて、出席さ
れている方々皆様とてもなつかしく、
友との再会の場としていただけたこと
を実行委員一同、感謝の気持ちで一杯
です。ありがとうございました。来年
も会員の皆様のご出席をお待ち致して
おります。
実行委員(三橋・柳)



本部署員

(校外)

会長 内田 正恵
副会長 秋本 陽子

会計監査 海保 靖子

編集委員 加藤 幸子
三橋 由美
小山 良江
秋本 陽子
柳 高子

事務局委員 川島 文子
密本 政子
秋葉佐和子

(校内)

学校長(副会長)

教頭 大沼 功
平山 弘之
松田 ユリ

事務長 仲野 純枝
北村 恵子
野口みどり

役員 船岡 和美
有田美代子

お知らせ

○春の定期異動により、田村清志教
頭先生が磯辺高校の教頭先生に、新た
に船橋芝山高校より、平山弘之教頭先
生がご着任されました。そして永きに
わたり同窓会にご尽力された校内役員
の林厚子先生が、ご転任されました。

○初代会長石井まさ様のご遺族の方
より、ご丁寧と同窓会へのご立派な時
計を頂きました。大変ありがとうございました。

”インターネットで

母校の情報を見ましよう”

「千葉県立佐倉東高等学校」で検索さ
れますとご覧頂けます。ご利用下さい。

お誘い

同窓会編集委員と一緒に取り組んで
頂ける方を是非お願い致します。

年に一度の会報「まそかぐみ」発行
ですが楽しく編集作業をしています。
委員一同お待ちしております。

学校では…

『丹鈴』を朗読する

演劇部顧問 伊三野 友章

わたしが六年前、佐倉東高校に赴任してきて初めての夏休み、まず着手したのが創立以来の本校の歴史を映像化することでした。わたしは夏休み中、ずっと事務室前の陳列ケースにへばりつき、陳列された写真一枚一枚をイメージスキャナを用いてノートパソコンに取り込む作業を続けました。

そして、その夏、その陳列ケースで、わたしは『丹鈴』と出会ったのです。千葉県立佐倉高等学校卒業五十周年



記念誌『丹鈴』。そこには太平洋戦争「開戦の年に入学し、終戦の年に卒業」した同窓生の稀有の体験が綴られています。わたしは突っ立ったまま、しばし作業の手をとめてその冊子に読みふけりました。わたしは演劇部顧問としていつかその音声化を試みたいとすでにそのとき考えたことをはつきり覚えています。

それから五年が経ち、ようやくその実現の機会がめぐってきました。

発端は、長編ドキュメンタリー映画『ひめゆり』との出会いでした。「ひめゆり学徒隊」の生存者の方々の「言葉を丹念に紡いだ作品」。その映画の完成を待たずして三人の方が他界されたといえます。これは今、ぎりぎりのところでは是非でも行なわねばならない作業なのだということが明確に理解できました。そして次の瞬間には、もう気持ちは固まっていました。佐倉で上映会をやる、と。

映画『ひめゆり』の上映会を企画するなかで、映画上映とあわせて『丹鈴』の朗読も行なうアイデアは、最初から脳裡にありました。テーマは、《戦争体験を語り継ぐ》ということ。もちろん戦争体験者の方々の証言を記録する作業が喫緊の課題であることは言を俟ちません。しかしまた同時に、語り継がれた戦争体験を、今度はわたしたちがいかにして次の世代に語り継いでい

くのか、という課題もあるのではないかと考えたのです。戦争体験者の方々のことばを、戦争体験のないわたしたちが、戦争体験のないあなたに語り継ぐこと。朗読を通じて実現しようとしたのはそのようなことでした。

朗読は「SAKURA/OKINAWA」と題し、『丹鈴』とともに伊波園子氏著『ひめゆりの沖縄戦』の冒頭部分もあわせて朗読することにしました。呼びかけに応じて集まった佐倉東高校の在校生卒業生は九名。皆つらい練習にも耐え頑張りました。

本番は今年一月三十日三十一日、ミレニアムセンター佐倉にて。同窓会の皆様をはじめ多くの方々にご支援をたまわり盛況のうちに終えることができました。この場を借りて、皆様に厚く御礼申しあげます。

平成二十年度進路状況

昨年度より不況の大きな影響を受けることもなく、大半が希望することができました。

就職は、昨年度同様に男子の内定率が高く、女子の内定は難しい状況でした。進学では、専門学校への進学が多いのは相変わらずでしたが、大学・短大ともに昨年より増えました。共学化二期生で男子の人数が増えたため、男子の大学への進学が目立ちました。

進路別状況

	服飾デザイン	調理国際	普通	計
就職	6(1)	8(4)	30(9)	44(14)
4年制大学	1(0)	4(2)	39(22)	44(24)
短大	3(0)	5(2)	14(1)	22(3)
専修・各種	17(2)	14(3)	33(10)	64(15)
家事手伝い	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
その他	4(0)	6(1)	26(6)	36(7)
計	31(3)	37(12)	142(48)	210(63)

()は男子の数

四年制大学
神田外語大学
国士舘大学
聖徳大学
千葉工業大学
東京電機大学
和洋女子大学 他

短期大学
植草学園短大
昭和学院短大
杉野服飾短大
聖徳短大
千葉経済短大
東京農業短大 他

編集後記

秋色しだいに濃くなりましたが皆様におかれましては、ご健勝にてお過ごしのことと存じます。

会報「まそかゞみ」も、お陰様で第三十号発行と、改めて歴代の同窓会会長様をはじめ皆様方に深く敬意を申し上げます。

又、いつものことですが、ご寄稿頂きました皆様には、お忙しいところ大変ありがとうございます。編集委員一同心よりお礼を申し上げます。

今年の同窓会総会には、大勢の方々のご出席を頂きたいと願い、実行委員の方を中心に、綿密な企画、準備などさぞかしご苦労が多かったことと思います。当日は、出席者全員が感動致し、本当に楽しい総会でありました。実行委員の皆様への感謝の気持ちをこめて大きい拍手を……。

(秋本)